

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	環境局
----	-----

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	循環型の生活様式・産業構造への転換
	取組みの方針	環境産業拠点都市の形成

担当局 / 総務担当課名	環境局	総務課
連絡先	582-2182	

21年度計画

-3-(2)-

施策名	環境分野における技術開発の促進
-----	-----------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州学術研究都市やエコタウン実証研究エリアの活用、環境未来技術開発助成事業などにより、廃棄物やりサイクル、次世代エネルギーなどに関する技術開発を行うとともに、長寿命・高耐久性・軽量化など環境に配慮した高度な部材開発を進める。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	環境産業拠点都市の形成

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		計画	平成21年度		目標値	
	3R技術高度化研究会から委託事業・補助事業につながった件数	年度	21	年度		21	1 件	年度	
3R技術高度化研究会の活動を通じて、次のステップ(国・NEDO・市の委託事業や補助金に採択されるなど)に移行できた件数を指標とする。	現状値	1	実績	達成度	1 件	目標値			
					100.0 %				
北九州市環境未来技術開発助成事業で助成した研究開発の事業化数	年度	21	計画	1 件	年度	平成25年度			
	現状値	12	実績	達成度	1 件	目標値	事業化数累計(H15～H25) 16件以上		
100.0 %									
環境未来技術開発助成に基づき、数年後に実証研究が事業化された数(「事業化数」)を成果指標に設定。	年度		計画		年度				
	現状値		実績	達成度	%	目標値			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]				事業費	94,263 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
					うち一般財源	94,263 千円	14,925 千円		

## 局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	3R技術高度化研究会の活動を通じて、1テーマが環境未来技術助成に採択されるなどの成果があった。環境未来技術開発助成に基づき、実証研究されたものが毎年事業化されている。
		研究を事業展開へと繋げていくものであり、施策に対する有効性も高く、今後も目標達成に向け、着実に取り組んでいく必要がある。
今後の局施策の方向性		

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

## 評価担当部署の意見

適切な評価  下記のとおり

施策名 環境分野における技術開発の促進

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
3R技術高度化研究会			3,975 千円	3,900 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			3,975 千円						
北九州市環境未来技術開発助成事業			90,288 千円	11,025 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			90,288 千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
	94,263 千円	14,925 千円	
施策全体の事業費のうち一般財源	94,263 千円		

局施策の  
21年度評価

**A**

【局施策評価】  
A:大変良い状況にある  
B:概ね良い状況にある  
C:概ね良い状況とまでは言えない  
D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 A:事業の見直しを図ることが可能 I:休止・廃止を検討 U:現状のまま進めることが適当 E:終了

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	環境局	環境モデル都市推進室
連絡先	582-2630	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	循環型の生活様式・産業構造への転換
	取組みの方針	環境産業拠点都市の形成
	主要施策	環境分野における技術開発の促進

関連計画	
事業期間	平成18年度～
経費区分	裁量の経費

-3-(2)-

事業名	3R技術高度化研究会		
事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市の環境政策上推進すべき分野や今後事業化が有望と考えられる分野について、産学官による研究会を設置し、事業展開を見据えた研究開発や市場性・経済性等の調査、情報交換を支援していく。 ＜検討テーマ＞ ・希少金属・資源のリサイクル ・都市型バイオマスの活用 ・処理困難物の無害化・リサイクル ・既存リサイクル事業の高度化	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	環境分野における技術開発の促進
		成果	3R技術高度化研究会から委託事業・補助事業につながった件数

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状			研究会活動の実施					
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）						平成21年度	目標	
		3R技術高度化研究会から委託事業・補助事業につながった件数						計画	1 件	年度
		研究会の活動を通じて、次のステップ(国・NEDO・市の委託事業や補助金に採択されるなど)に移行できた件数を指標とする。						実績	1 件	内容
								達成度	100.0 %	年度
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]						事業費	3,975 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)
								うち一般財源	3,975 千円	3,900 千円
	単年度計画	[図表: 単年度計画の推移]								

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	事業化テーマのひとつとして活動を行っていた「廃冷蔵庫から発生する断熱ウレタンのリサイクルに関する調査研究」については、共同研究者の探索などの支援により、共同研究体を立ち上げ、環境未来技術開発助成事業に採択された。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	平成21年度は、1つの分科会の行っていた研究テーマが、環境未来技術助成事業に採択されており、今後も本研究会から事業化を実現するという流れが期待できることから有効性は高い。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	当研究会はテーマごとに期限、計画を定め、スクラップアンドビルド方式で行っており、事業化が期待できないものについては、早急に見切りをつけ、継続しないようにしている。また、今後期待できる研究については、早急に研究会を立上げて検討していくといった、合理的な運営を行っており、効率性は高い。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	全国的に、3Rに対する関心が高い現在、当事業はタイムリーなものである。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		3	当事業は、北九州産業学術推進機構(FAIS)との共同事業であるが、環境産業の振興という点において市環境局が関与する必要がある。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		本事業は、3Rに関する研究を事業展開へと繋げていくものであり、施策に対する有効性も高く、今後も目標達成に向け、着実に取り組んでいく必要がある。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	環境局	環境モデル都市推進室
連絡先	582-2630	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	循環型の生活様式・産業構造への転換
	取組みの方針	環境産業拠点都市の形成
	主要施策	環境分野における技術開発の促進

関連計画	
事業期間	平成15年度～
経費区分	裁量的経費

-3-(2)-

事業名	北九州市環境未来技術開発助成事業
-----	------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証研究等に対して、その研究開発費を助成することにより、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図るもの。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	環境分野における技術開発の促進	成果	北九州市環境未来技術開発助成事業で助成した研究開発の事業化数	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	環境技術の研究開発費に対する助成制度の実施						▶	
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		採択研究の事業化数						計画	1 件	年度
		本事業は、数年後の事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定。						実績	1 件	内容
								達成度	100.0 %	事業化数 累計(H15～H25) 16件以上
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]						事業費	90,288 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)	
							うち一般財源	90,288 千円		11,025 千円
単年度計画	(この欄は単年度計画を記載する)									

**【事業の実施結果・進捗状況の確認】**

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	計画通り、21年度に1件の研究が事業化した。
------	-------------------------------------	------------------------

**【事業の再検証】**

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	3	年々、事業化数も増加しており、市内環境産業の振興・集積につながっている。また、当事業を進めることで、市内中小企業等に技術開発の機会を提供することができ、地域産業の活性化にもつながっている。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3	助成した研究については継続的に事業化に繋がっている。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	今実施しないと、特に中小企業は研究開発費の資金調達が困難であるため、環境関連の技術開発が大きく停滞する。その結果、市内環境産業の弱体化を招くおそれがある。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	環境モデル都市である本市は、低炭素社会の実現に向けた施策を実施している。本事業においても平成21年度に低炭素社会に向けた「新エネルギー・省エネルギーの技術開発」を重点分野に設定するなど、本市の環境施策に対応させる必要があるため、市(環境局)が実施することが適切である。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後も有効性・経済性に留意しながら事業を実施していく。	